

いよいよ、幼稚園のお泊まり保育が全員参加で行われ、昨日から神学生の夏期実習も始まりしました。今日は夏期学校、来週はバイブルキャンプ、そして近畿夏期聖会と続きます。兄弟姉妹と共に、幸いな時を過ごすことができますように。

### 天路歷程

今朝のルカ 17 章は、9 章から 19 章まで続く「エルサレムへの旅」の一部分です。「イエス様と旅をする」ということが、「イエス様と人生を歩む」ということに重なります。東海道には、宿場が 53 ありました。長い旅の疲れを癒す、宿場は一服の寛ぎを与えてくれたことでしょう。私たちにとって、日曜日の礼拝は、1 年の歩みを支える宿場です。「旅は道連れ」です。目には見えませんが、イエス様が今日も隣で私たちの歩みに語りかけておられます。そのことに耳を傾けましょう。

クリスチャンの人生は、実は、目的地は大変明確です。それは「天の御国」です。でも、伊勢参りより、聖地巡礼より、黄金の国ジパングを目指す大航海より、それは凡人には、到達不可能に思える、虹の向こうのような目的地です。本気でそこを目指すとき、そこにたどり着くことがどんなに困難か、1～5 節に記されています。つまり避けられないこと、また途方もない忍耐力と精神力を求められています。残念なことに、ほとんどの人は、「天の御国なんて、夢の世界の話なのさ」と呟き、諦めてしまいます。そして信仰者を疑いの目で見ようようになります。

しかし、愛の主は、私たちに「そうだね、あなたには無理だったね」とは決して言われません。『天路歷程』の物語が示す通り、どこまでも励まし見捨てずに、御国まで導いてくださるのが、十字架で私たちを罪から救ってくださったお方です。

### 主の恵みにより頼め

主の言葉を聞いているのは弟子たちです。しかし、この弟子たちは、意味を理解することは殆どできませんでした。広い心を求められて、ボロボロの通信簿を渡されたような気持ちになったでしょう。「信仰を増してください」と彼らは言いました。

しかし、それに対するイエス様の答えは、「からし種一粒の信仰があれば、なんでもできる」というものでした。禅問答のようですが、これが弟子たちのズレなのです。その答えの真髄は、「神の恵みに頼み、神のなされることに我が身を委ねよ」ということです。目に見えない御国への道は、目に見える地図には書けません。しかし、神の恵みにより頼む、一粒の信仰があれば、神のみ業が働いて、その道は開かれるのです。天国の喜びも、時に心に輝きます。信仰こそ旅路を導く杖なのです。

旅は長く、肉体は弱いものです。しかし、主のなされる事は時にかなって美しい、と聖書は語っています。今朝、主への信頼を新たに持ちましょう。旅は続きます。